



**地域との協働による
高等学校教育改革推進事業「グローバル型」
福井県立丸岡高等学校**



【構想概要】

持続可能なふるさとの豊かな営みを創出するグローバル人材の育成



目指す人材像

グローバルな視点を持ち、地域の活性化に資する人材

身に付ける
資質・能力

- 地域や世界と関わりながら、自分で考え、主体的に責任を持って行動できる力
- 多文化共生社会をめざし、外国人と協働して課題を発見し解決できる力
- 世界的な視野で地域の資産を生かして、新しい産業を生み出す起業力

これまでの先進的な取り組み



発展
全学年で実施

2019年度からの取り組み

保・幼・小・中・高の一貫した探究学習

海外高校生との国際協働探究学習

地域・行政・企業等と地域の課題解決

学校設定科目「グローバル英語・社会」

丸岡高校が描く未来

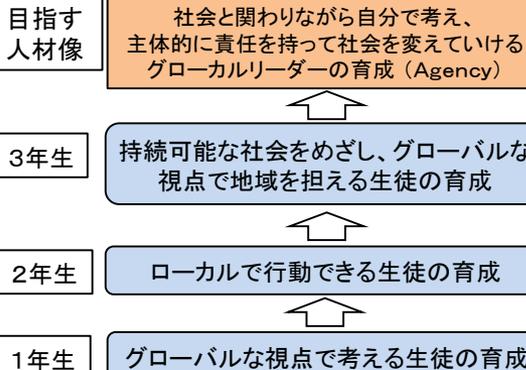
- ◆ 5年後
地域住民が主体的に町づくりに参加
- ◆ 10年後
新幹線効果で観光発展
外国人観光客増
- ◆ 15年後
若手起業家誕生
新しい産業 人口増

主な予定

- 2019.7 日本人学校と交流
- 8 タイ国ヘスタディーツアー
- 10 ウィキペディアタウンin丸岡
丸岡古城祭りへ企画参加
- 12 台湾研修で現地調査・発表
お城EXPO2019に参加・発表
- 2020.2 県教育総合研究所で発表
坂井市議会で発表
福井大学ラウンドテーブル
- 3 小中高連携丸岡城サミット
運営指導委員会
- 8 生徒国際イノベーション
フォーラム2020で発表
タイ国ヘスタディーツアー
- 10 丸岡古城祭りへ企画参加
- 12 台湾研修で現地調査・発表
- 2021.3 小中高連携丸岡城サミット
- 12 台湾研修で現地調査・発表
- 2022.2 福井大学ラウンドテーブル

地域や海外との協働による取組

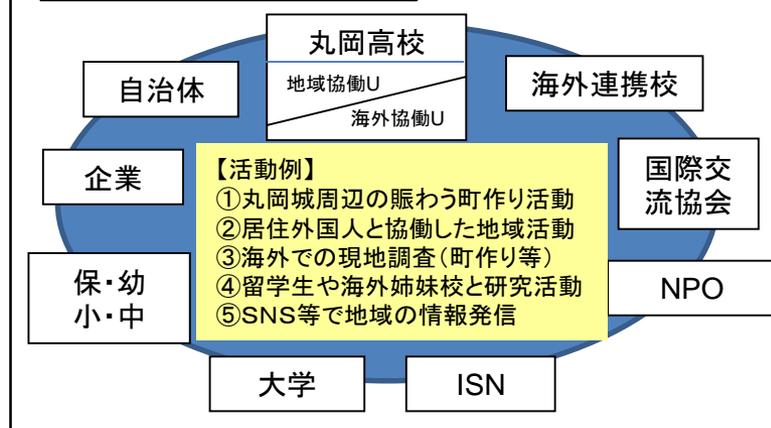
人材育成モデル



課題解決のためのコンソーシアムとの協働

1. 地域の課題を行政・企業・NPO等が学校と連携し協働して解決していく。
2. 地域課題の解決のために生徒が海外連携校等の様々な主体と協働しながら取り組む。
3. 課題解決に必要なカリキュラム開発は教職大学院と連携し推進する。
4. スタディー・ログ等のポートフォリオとして収集されたデータは、生徒の資質向上の効果測定のために、大学の研究者が分析する。
5. 本校で学ぶ留学生の生活や語学学習をコンソーシアムが支援する。

コンソーシアム全体概観



高大接続について

丸岡高校 + 福井大学連合教職大学院

- ・本校の教員を現職のまま教職大学院へ
- ・校内に教員の研究組織 JKB
- ・連合教職大学院が、カリキュラム開発専門家や海外交流アドバイザーとしてプロジェクト学習のカリキュラム開発、海外高校との連携をサポート

学校内でテーマに即したプロジェクト学習を実施展開

福井県(地域)の地域課題や社会課題の解決を追求するPBLを高校で推進しながら、2030年を見据え、これからの社会に暮らす私たちに必要なスキル・知識・人格(コンピテンシー)を探究し、世界に発信していく

- ・連携国:台湾・タイ
- ・実施形態:校内 + 校外交流(ex.地元の小中学生、海外生徒との協働探究学習)

2020年の大学入試改革を見据えた学校の特色となるカリキュラム開発
校内研修のイノベーション、教職員の探究活動に関する専門性開発

連合教職大学院による生徒たちや先生方へのインタビュー・アンケート・授業参観
研修会などを実施

1. グローカルスタディ英語（1単位） 2年

地域の自然・歴史・文化等の地域の特色を外国人観光客や海外に向けて説明や発信できる英語力、および次年度の学校設定科目（グローカルスタディー社会）に応用できる能力を育成する。

2. グローカルスタディ社会（1単位） 3年

地元の大学・自治体・企業・NPOおよび海外の連携校等の多様な個人や組織と対話・協働をしながら探究型学習に取り組むことで、2030年問題として指摘されている少子高齢化、産業振興、観光、環境、エネルギーなどの地域の諸課題を、主権者として解決する能力を高め、新しい時代に求められる資質・能力を育成するため。

学校設定科目を教科間がどのように連携してすすめていくか

金融をテーマに日本史・古典・政経・数学グローバル英・家庭の教科横断型授業の例



- 課題
- 単なる教科横断型の授業になっていないか。
 - 各教科の目標を達成しているか。

課題研究の指導の研究

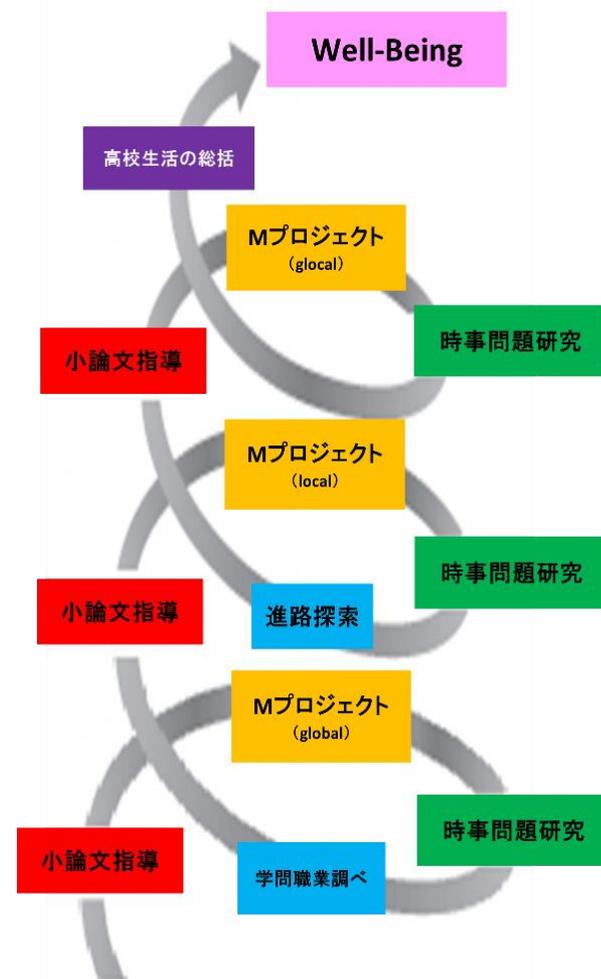
【評価について】

評価の観点		ルーブリック	
A	学びに向かう力 (どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか)	①	興味関心をもち、意欲的に関わろうとしていたか
		②	自ら計画を立てて、学習に向っていたか
		③	よりよい生活や社会の創造に向けて、自他を尊重し他者と協働的に取り組むことができたか
B	知識・技能 (何を理解しているか、何ができるか)	①	課題の解決に必要な知識・技能が身に着いたか
		②	課題に対する概念を形成することができたか
C	思考力・判断力・表現力 (理解していること・できることをどう使うか)	①	実社会や実生活と自己との関わりから問いを見だし、自分で課題を立てることができたか
		②	情報を集め、整理・分析して、まとめ・表現することができたか
		③	課題や状況に応じて必要な知識・技能を選択したり、適応したり、組み合わせたりして活用することができたか

【評価方法】

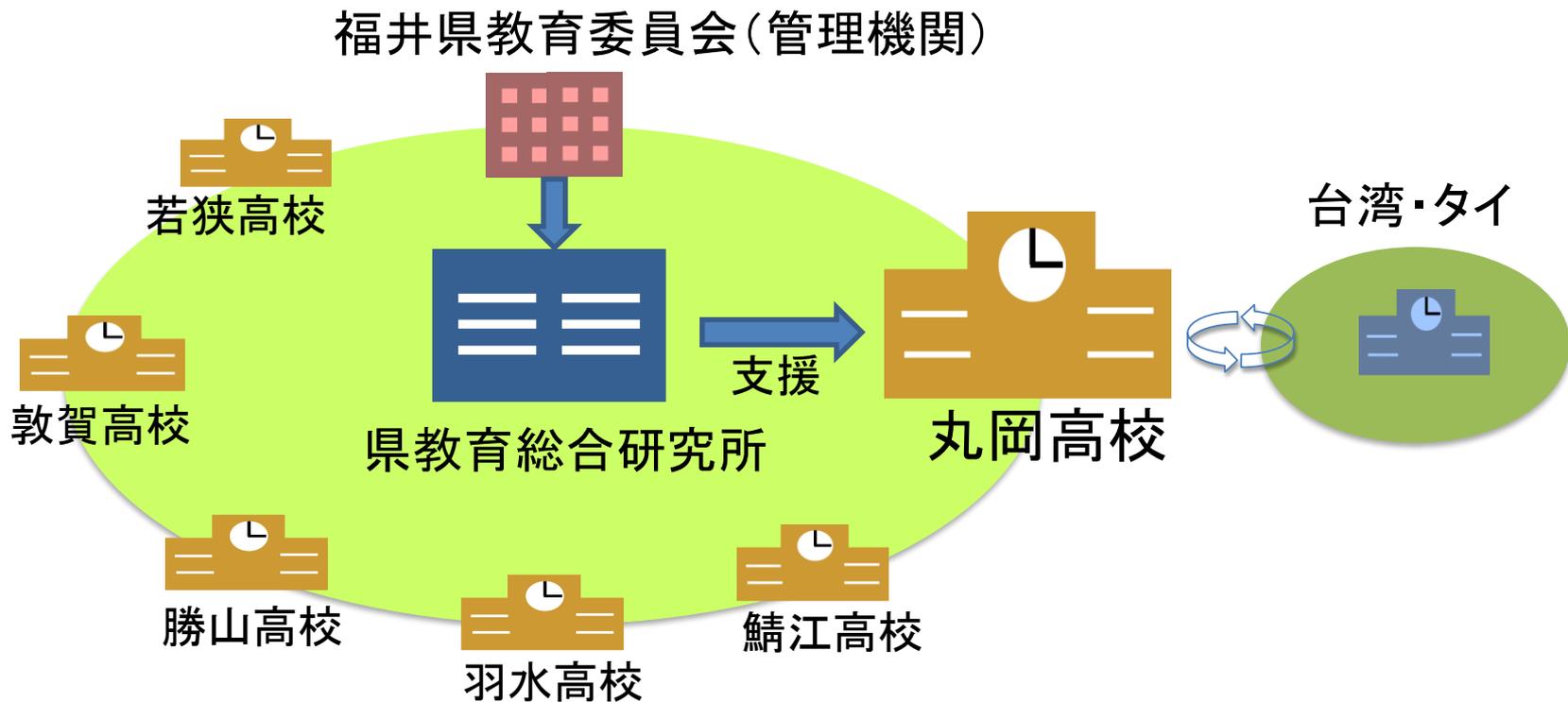
(1)	観察法	生徒の行動を観察し、ルーブリックを規準に学習を評価する。
(2)	自己評価	生徒自身で、ルーブリックを規準に自己の学習を評価する。
(3)	相互評価	生徒同士で、ルーブリックを規準に互いを評価し合う。
(4)	パフォーマンス評価	レポートの内容や口頭発表等により評価する。
(5)	ポートフォリオ評価	生徒の学習活動の過程や成果などの記録や作品を計画的に集め、学びのプロセスや変容を評価する。

【学習のイメージ図】



AARサイクル「Anticipation（見通し）－Action（行動）－Reflection（省察）」を組み込んで学習を行う。

管理機関としての取り組み



- 県教育総合研究所に担当課を設置(新教育課題研究課)
- 県教育総合研究所から丸岡高校に指導主事を派遣し研究支援
- 県内6校を連携校とし、丸岡高校の成果を共有させる仕組みを構築
- 年に2回、県内6校による研究発表会実施(8月中間発表 2月成果発表)
- 丸岡高校に教員1名の加配
- カリキュラム開発専門家・海外交流アドバイザー・地域協働学習支援員の配置

グローバル① 【新しい部活動 地域協働部】

※平成31年度入学生より、「**地域貢献・国際交流**」の特色選抜を実施
生徒の受け皿として**地域協働部**を新設

○主な活動 地域を紹介するウィキペディアタウンの実施

- ①生徒が地域をフィールドワークと文献で調査
協力: 県内図書館 海外交流アドバイザー 地域協働学習支援員
- ②調査結果を、多言語に翻訳 協力: 国際交流協会 留学生
- ③ARのアプリで地域紹介動画を製作 協力: 放送部
- ④ウキペディアに掲載し、世界にむけて地域を発信
- ⑤ふるさと納税を活用し、商店街にウキペディアタウンプレートを設置する活動
市のふるさと納税活用プロジェクトに高校生が参加
市議会主催の高校生議会で提案

グローバル② 【海外研修や国際交流】



タイ国へのスタディーツアー



台湾研修



海外の高校と国際交流

グローバル③【地域・行政・企業等と地域の課題を解決】

「PTAと市議会のコラボ企画」



公民館で地域の課題を取材



地元企業の見学



高校生議会で提案



グローバル④ 【地域貢献活動・地域での探究学習】

地域貢献活動(シャッター制作)



地元の祭りでボランティア



丸岡城サミット(小中高連携探究学習)



丸高カレッジ(市民講座)

【本取組における課題】

【生徒】

- ・生徒が地域で学びあう喜びの体感の実現
- ・部活動中心の活動から全校生徒の活動への転換

【教員】

- ・働き方改革との兼ね合い
- ・探究活動にむけた教員の意識改革

【海外】

- ・海外姉妹校との交流ノウハウの蓄積

【コンソーシアム】

- ・事業に対する思惑の違いの調整